

産業界から真に必要とされる人材を育てる大学に

大阪経済大学 理事長
勝田 泰久



かつた・やすひさ氏

1942年生まれ
1965年 早稲田大学第一法学部卒業
1965年 株式会社大和銀行入行
2001年 大和銀行代表取締役頭取
2002年 りそなホールディングス社長
2003年 りそな銀行頭取
2005年 大阪経済大学経営情報学部特任教授
2005年 船井電機社外取締役
2006年 大塚製薬社外監査役
2007年 学校法人大阪経済大学理事
2008年 学校法人大阪経済大学理事長

かつて私は銀行にいましたが、当時は大学を批判的に見ていました。管理職として大卒の新入行員を迎え入れる際にも、「読み書きそろばん程度ができていれば、あとは銀行で育てられる」と、大学にはさほど期待していなかった記憶があります。

立場が変わり、大学に入ってみると、教育の大変さが身にしみてわかります。先日、ある産業界の会合に招かれ、企業経営者と公開討論をしたのですが、その席上、「大学にはまったく期待していない」と言われました。「卒業証書の代わりに、品質証明書が必要だ」とも言われ、さすがに腹が立ちましたが、私もかつて同じようなことを言っていたのを思い出しました。頭を冷やして考えるなら、それが大学に対する産業界からの偽らざる評価なのです。われわれはその言葉を真摯に受け止めなければなりません。大手メーカーが今後アジア圏からの採用を大幅に増やしていくという報道もあります。そうしたことも、日本の大学が直面している現状だと認識しなければならないでしょう。

大学改革について私がポイントだと思っているのは、まずFD（ファカルティ・ディベロプメント）です。学生が評価しない授業は、やはり先生のほうに問題がある。さまざまなトピックを散りばめるなり、タイムリーな話題を取り上げるなり、マンネリを打破する方法はいくらでもあるはず。授業改善にいつそう取り組んでいただくよう先生方にはお願いしています。

SD（スタッフ・ディベロプメント）も重要です。産業界から大学へ来て、最も違いを感じたのは職員でした。大学の中のことは知っていても、外を知らない人が多いのです。職員が社会を知るために、東京への出向制度や海外ホームステイの機会を作り始めました。外の世界を知れば、自分たちがいかに恵まれた職業や待遇であるかがわかるはず。そうすれば、これまで以上に仕事の成果や効率を考え、業務改善を進めてくれるのではないかと期待しています。

職員が努力しても変えられないところは、管理職の

出番です。それがMD（マネジャー・ディベロプメント）。私以下、理事や部長クラスにとって制度改善は大変重要な仕事だと心得ています。

改革とは一足飛びに進むようなものではなく、マイナーチェンジの連続と考えるべきだと思っています。誰も納得できなければ前に進みませんから、おのずと時間がかかるものだと思いますね。

少人数教育のために小規模大学にこだわる

大阪経済大学の良さは少人数教育で、教員と学生との距離が近いところだと思います。私自身が大学1年の時、500人の大教室で授業を受けたことがあります。残念ながら先生に対して誠意を感じませんでした。ところが2年でゼミナールに入り、先生と直々に意見を交わすようになって、「これが大学だ」という思いを強くしました。そんなふうに私がゼミナールで感じたことを本学の学生にも味わってもらいたいということもあり、「ゼミの経大」という特長を強くアピールしていこうと考えています。

具体的には、学生には1年次からゼミに入ってもらい、少なくとも週に1度は授業を行っていく。私も理事長になる前はゼミを担当して学生と接していました。議論をしたり、小論文を書かせたり、個々の悩みを聞いたり、学生一人ひとりの様子をつかめるというメリットが大学側にもあると思います。

少人数教育を維持するためにも、大学の規模はあまり大きくすべきではないでしょう。現在の学生数は、大学院生を含めて7500人。「ちょうどいい規模ですね」と他大学の経営者から言われることが多く、人に言われて初めて自分の長所に気づいたような気がしました。創立80周年を機に若干の定員増を計画していますが、それでも1万人を超える大学にはしないと公言しています。

「就職の経大」という評価もいただいているようですが、少人数ならではの強さかもしれません。いっそ

うの強化のために、銀行をリタイアされた方を数人採用しました。企業の目利きとして、今後有望な大阪の企業などを学生に勧めてもらおうと思っています。

卒業生の活躍が学生の自信になる

来年、創立80周年を迎えるに当たり、すでにさまざまな動きをスタートさせています。ひとつは経営学部の定員増。そして経営情報学部を「情報社会学部」へと改組すること。最も資金を投下するのは、キャンパスの整備です。少人数教育を徹底するために大教室を排除し、安全基準に則った新校舎を建設していきます。また、図書館も改築します。大学図書館は市民に活用されなければ意味がないと思いますが、現状は使い勝手が良くないため、改善していきます。

創立80周年を記念し、さまざまな講演会も開催しています。本学学長と大阪市長との対談を設定したり、保護者を対象に夜回り先生として有名な水谷修氏から親子コミュニケーションについて話してもらったり。また学生対象講演会として、第1回は株式会社ジャパネットたかたの代表取締役高田明氏、第2回は岩谷産業株式会社の代表取締役社長牧野明次氏という二人の本学OBをお招きし、大盛況でした。本学には8万6000人の卒業生がいますが、そのなかに上場企業の社長が十数名、非上場の会社を営んでいる方が約1200人います。それだけいるのですから、もっと発掘して大学に顔を出していただき、学生に自信や気づきを与えるようなお話をさせていただこうと思っています。

卒業生とのつながり、地域とのつながり、教職員と学生…この大学にかかわるすべての人たちのつながりが、これからも大阪経済大学の基盤を形作っていくことでしょう。「つながる力No.1」というキャッチフレーズを胸に、更なる発展を目指していきます。 ■